

3 平成19年度予算案における特徴

【平成19年度予算の3つの柱】

- (1) 「ハートフル北九州マニフェスト」の思い切った実現
- (2) 歳入・歳出にわたる経営改善の強力な実施
- (3) リスク管理、サービス向上に向けた民間ノウハウの徹底活用

(1) 「ハートフル北九州マニフェスト」の思い切った実現

前出 1 平成19年度予算案の概要 (3) 「ハートフル北九州マニフェスト」の思い切った実現のとおり

《マニフェスト関連事業の19年度予算案への反映状況》

(単位：百万円)

	19年度	18年度	①9-①8
子育て支援の重点化	3,014	2,163	851
教育の重点化	8,725	6,602	2,123
福祉の充実	1,726	584	1,142
環境首都の実現	1,034	960	74
元気な経済都市づくり	12,498	8,112	4,386
ハートフルなまちづくり	2,543	1,331	1,212
市民と共に歩む市政運営の推進	321	176	145
計	29,861	19,928	9,933

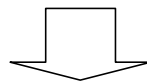
(2) 歳入・歳出にわたる経営改善の強力な実施

計画策定時の平成19年度の経営改善見込額は100億円であったが、当初の計画で見込んでいない歳入の減少等があり、これをカバーするために、計画を大きく上回る145億円の経営改善に取り組むこととしている。

平成 19 年度予算で必要とされる経営改善額の状況（一般財源ベース）

（単位：億円）

項 目	平成19年度	備 考
「経営基本計画」策定時の 経営改善目標額	100	
平成19年度の主な変動要因 （中期財政見通しで見込んでいない 変動要素）	45	・ 地方交付税の減少 ・ 地方特例交付金の減 ・ 法人市民税の増等
平成19年度における経営改善必要額	145	



平成19年度予算における経営改善の取組み（一般財源ベース）

区 分		平成19年度 見込額	備 考
歳入	市税や税外収入等の増	3	・ 市税収入の収入率の向上
	既存施設の活用や使用料手数料の見直し	12	・ 広域連携の推進
	その他	35	・ 外郭団体に対する貸付金の返還 ・ 特別会計の剰余金の活用 ・ 市有財産の有効活用
	小計	50	
歳出	人件費の削減	19	・ 職員数の削減と人件費総額の抑制
	公共投資の重点化・抑制	34	・ 特殊要因を除くベースで9.3%減
	事務事業の見直し	42	・ 企業会計への繰出しの見直し ・ 裁量的経費の削減
	小計	95	
平成19年度予算における経営改善見込額		145	

（３）リスク管理、サービス向上に向けた民間ノウハウの徹底活用

厳しい財政状況の中、効果的・効率的な都市経営の実現を図るためには、行政運営に民間の参画を求めることが不可欠である。すなわち、市の主業務は企画を中心とし、実施業務については民間事業者、市民、NPO等の参画を求めていくことが重要である。これに伴って、事業実施の方法・スキーム自体を十分検討する必要が生じる。

平成１９年度においては、民間活力の導入を戦略的に進め、行政運営に民間が参画した場合のメリットを最大限に活用するべく政策検討を行う。

- 民間活力の導入について体系的に調査・研究し、考え方や方針を整理した推進計画を策定する。
- 民間事業者のノウハウの活用や全体経費の縮減が期待できるPFIについて、導入が想定される事業にかかる事業範囲や事業手法、整備すべき民間施設の導入可能性など、具体的な事業の枠組みを調査・検討する。
- 指定管理者制度については、指定管理者が自主性や創造性を十分に発揮できるような仕組みを検討し導入する。
- 市職員全体に情報提供することにより、民間ノウハウの活用に対する職員の意識を醸成する。

平成１９年度予算案に係る主な民間活力導入可能性検討事業

事業名	概要	今後の取組み
フィッシャリーナ	隣接するフィッシャーマンズウォーフや周辺の親水施設と連携してフィッシャリーナ（プレジャーボートの係留施設等）の整備を行う。 【事業地】脇田漁港（若松区）	○ 平成１９年度(予定) P F I 事業化調査
漫画ミュージアム	松本零士氏をはじめとする本市にゆかりのある漫画家の資料等を収集・展示するとともに、人材育成を行うミュージアムの整備を行う。 【事業地】西鉄チャチャタウン２期事業の３階部分を予定 （小倉北区砂津一丁目１番）	P F I 手法を視野に入れ今後の整備を検討。 ○ 平成１９年度(予定) P F I 事業等可能性調査
門司港 レトロ地区 ・旧ＪＲ九州本社ビル	歴史的建造物として外観を維持しつつ有効活用する。 【建物概要】 竣工年：昭和１２年 延床面積：５，６３４㎡ 構造：鉄筋コンクリート造地上６階（地下１階）建	民間ノウハウや資金を最大限に活用した事業手法を検討。

《参 考》 思永中学校整備P F I 事業におけるメリット

- ① マーケティング調査による利用人数の正確な把握等による事業計画の妥当性の確保

ノウハウのある事業者によるマーケティングと金融機関によるチェック

- ② 民間のノウハウの発揮、きめ細かなサービス展開

コスト３割削減、西日本工業大学の進出、きめ細かなプール運営

- ③ 適切なリスク分担

プール利用者７万人を確保、下回った場合、民間のリスク